

会場からの意見

長谷川 では会場から、実際に活動している方に、何をしているのか何をしなくてはいけないのかを聞きたいです。

中沖 私は人づくり部会の運営委員をやっているが、子どもたちの取り組みに関心した。今、森づくりに取り組む人はとても少なく、まず親の興味が薄れている、森で遊んだことや森の知識がないからと出てこれないと思うが、子どもたちに刺激されてもつと出てきてくれたらと思う。会員の年齢層は高いが森は長いスパンで育てるため今持っている技術や知識を子供たちにもどんどん伝えることが大事だと思う。

会場参加者 私は会員ではないが、以前から活動について関心を持っており金沢の関係者も富山の取り組みに関心を持っている。今の富山県の大自然を市や企業がバックアップして、ぜひこれをPRして、環境の世界的モデルにしていきましょう。

森 地に足のついた活動をしようというの、きんたろう倶楽部の取り組みであり、数値的目標を達成することとは別の「参加して取り組む事」や富山・石川の対立ではなく、それぞれの持ち味を融合させ一緒に取り組む事が大事だと思う。

長谷川 それでは西頭会長、ここまで小学生や高校生の発表がありました。



西頭 おそらく今日来ている人は二つに分けられる。里山を守る活動をやっている世代と、環境は大変だと頭から理解している世代。高山大学でも環境塾というのをやっているが学生と古い教官の間にもギャップがある。このきんたろう倶楽部をもつと日常的に、感性をもつと一般の人に広げるのが一つかなと思う。

長谷川 清水さん、きんたろう倶楽部の取り組み、みんなをやっていることと思いませんか。



清水 新聞部で活動すると、夜も遅く休みもあつてないようなもの。みんなが森に行つて活動するというのは、今の高校生にも無理があると思うが、一部のそういう人たちには新聞で呼び掛けていくのも大切だと思います。

子どもたちからの質問

長谷川 岩瀬小学校の子どもたちからエコカーについて質問があります。「ハイブリッドカーを使っていない人が多いのはなぜ」「エコカー以外は使えないようにしたらいい」「ちよつとそこまで車で行く人が多いと思う」「エコカーに乗り換えるのは本当にエコなのか疑問に思う」「植樹活動にいくとき、車やバスで行つてプラスマイナスゼロということはないですか」。まず、ハイブリッドカーやエコカー、どうしてまだ少ないのか？

森 まずエコカーの方が環境に

値が高いので、ハイブリッドでない人があるのは当然と思う。自動車産業も企業活動の一環だから、売れないと存立できない。法律は自由な企業活動を規制できない。エコカーが売れば生産量も増え値段も下がると思う。

また植林に行く時に車の使用はどうかという理屈もあるが、こうした数値は係数だから、一概には言えない。子どもたちに説明するのは難しいので、「本当だね、一人一台でいくより、相乗りしていったほうがいいね」と答えてあげてください。

わたしたちができることはなんだろう

長谷川 今日のテーマは「わたしたちができることはなんだろう」という問いかけの場であると思う。実は20年前に、リオデジャネイロで環境サミットが開かれ、その時に12歳の女の子が「世界の大人に向けて」というスピーチをした。その時、私はショックを受け環境について関わりたいと思うようになった。それから20年経て市民のなかで「生活のなかで実践する」ということがとても身につけてきたと思う。ただその20年の間に、地球の環境は改善されたというより深刻になっている。それと裏腹に、市民の意識は変わっている。

最後に一言ずつ、20年後、40年後を視野に入れて、その時どんな富山になっているか頭に描いていただいて、次世代へのメッセージをお願いしたい。



法 意識を持つという方向に行くと思う。企業として、社有林を保持育成する、環

境基金で支援する、ということはあるが、それは小さなことで、一人一人が意識を持ち、次世代につなげるのが一番大事だと思う。



中尾 子どもたちに「生き方を残す」というのが一番大事だと思う。家族や自然とのかわりが、結果として自然環境を守ってきた。その間50年で豊かになったが、子どもたちが自然にいかに向き合つて、どうやって家族や友達と生きていくか、その生き方を伝えていくことが一番大事だ。一緒に行動し伝えていきたい。会社でも農業分野に進出しているし企業としても取り組んでいきたい。

長谷川 最後に森市長、次世代に引き継ぐポイントをいくつかお話いただけますか。

森 ひとつは、二酸化炭素の排出をどうするか。二つは、かつての鎮守の森のように、生活と森がながつていたという質のいい森林をどう伝えるかということだと思う。

温暖化効果が効きすぎていることにより、水河の水が溶けたりしているが、もはや人ごとではなくゲリラ豪雨の増加など放置して置いたら経済活動にも影響する。二酸化炭素の削減は課題だ。一方発展途上国はどうするのかなどいろいろな議論があるなかで、一人ひとりの役割はとても意義があり、富山市は目標の実現に向けて、きちんとした取り組みを運動として発表したい。

今の子どもたちは昔の子どもたちと違ってきていて、きちんと環境について語れる現場が増えてお

りあまり心配しなくても大丈夫なのではないか。

生ゴミリサイクルなど市民に協力要請すると本当に熱心に協力していただいている。そういう地域なので着実に取り組みたい。

森林は心を育てる共有の財産として大切にしていこう。できれば鎮守の森が各学校にあり、子どもたちがそこで遊んでほしい。夜空いっぱいの星空や夕日を見たことがない子どもたちがいっぱいいる、というのではなく緑豊かな中で育つていくことが大事だと思う。



長谷川 環境を破壊してきたのも、回復できるのも人間。きんたろう倶楽部は、その辺をつなぐパイプ役として誕生したと思う。次世代を巻き込んで続けていく。地に根を展開していく。今日いただいたコメントで、会場の皆さんも考えを新たにヒントを貰われたと思う。これからの活動に参加していただいて、次のステップの第一歩を踏み出せたらと思います。(敬称略)



森についての学習発表会 「森と人と川と」

富山市立岩瀬小学校5年松組

岩瀬小学校5年松組の21人は「森と人と川と」というテーマでプロジェクターを使い全員がそれぞれ発表する、とても楽しく、かつ有意義な発表会で、会場の大人たちもみな関心していました。



私たち、岩瀬小学校の5年生は、総合的な学習の時間に、「環境を守る」というテーマで、森や川のはたらきについて学習してきました。

岩瀬浜で漂着物調査をしたり、そこで見つけた流木のふるさと人々を求め、岐阜県高山市の位山にも行きました。そして、森と川と人は、とても深くつながっていることがわかりました。

9月8日、私たちの住んでいるすぐ近くの岩瀬浜に、漂着物調査にでかけました。調査の前に、どのようなものが落ちていくか予想しました。プラスチック類、花火、タバコ、ライター、ビニール袋、ペットボトル、布類、流木がある

と予想しました。実際にあったものはプラスチック類、ひも、たばこのライター、ビニール袋、発泡スチロール、ほかに、金属やゴムなどいろいろあり、特に多かったのはプラスチック類です。このプラスチックのかわりには、もどほどなんものだろうか？ どうしてこんなに小さくなったのだろうかという不思議な疑問がわき、タバコの吸い殻が思ったより多くて悲しい気持ちになりました。調査したのは、ほんの10メートル四方という限られた場所ですが、岩瀬浜がこんなに汚れているとは思っていません。もつと興味を持ち、自分たちができることに積極的に取り組みたいと思います。

ごみのほとんどは、人工物です。たが、ひとつだけ自然のものがあ

りました。それは流木です。大きな流木が、山から海へ流れてくる



ところがある世界では、1分間に東京ドーム3個分もの森林が消えているといわれています。日本では、

森の役割は、水を蓄える、騒音を抑える、気温を調整する、リサイクル効果がある、海を守る、動物たちのすみかになる、山崩れを防ぐ、空気をきれいにする、きれいな水を生み出すなどたくさんあります。

もお世話になってい

うかも！
僕たちは宮小

小学校に行つた時、空気が汚さないため、ごみを出さないようにしたり、リサイクルしたり、いろいろな工夫をしてごみをもつと減らせるね。森を守ることに

なりました。このままだと、地面に日が当たらなくなり、植物が育たなくなつて森が消えてしま

うか！
僕たちは、6月20日、「山田こ



きました。
この苗木が大きく育つて、林に

うと、やがて森になるのかなと思

守れてい

た。これで少しは日本の環境が

うか！
僕たちは、6月20日、「山田こ

うか！
僕たちは、6月20日、「山田こ

うか！
僕たちは、6月20日、「山田こ